

SC-37 プラクティス についての質問

“Another question from Shunzo” by Lary Faris

抄訳：薩川俊三

横浜の友人 Shunzo が、国際大会で試合開始前に行う 4 枚のプラクティス（練習ショット）について尋ねた。「米国のプレーヤーが、キューをセントピート位置に立ててもらってその背後に#1 ディスクを得点し、その#1 をタンパ位置に置いてもらってその背後に#2 を得点し、シュート済みディスクを 8/8 センターライン上に置いてもらって#3 でダブルをプレイし、シュート済みディスクを 10 に置いてもらって#4 でそのディスクをキッチンに入れながら 10 得点するプレイをした。その理由は？」。（訳者注：競技規定は、対戦者又は対面プレーヤーにプラクティス援助を依頼できる）。

彼が目撃した 4 つのショットは、最も一般的だ。何故それを選ぶか、その選択を何時変えるかを説明する。

隠すショット 2 つは必ず行うべきで、そのルートのドリフトの向き、隠すことが可能か？ セントピート又はタンパディスク横のどの辺りを狙うか等を調べる。

8/8 センターライン上のディスクと共にダブルをとる#3 ショットは、8/8 センターライン周辺のドリフトを調べることができる。

10 ディスクを狙う#4 ショットは、10 エリアのドリフトと、10 をキッチンに入れるシュートの強さを調べる。10 のドリフト調査は重要で、調べないと、対戦相手は、第 7 ショットを 10 に得点して、ハンマーで得点するのを妨げようとする。

上記の場所の情報を予め知っていれば、別の場所を調べてもよい。情報は、そのコートで以前プレイして、そのコートのゲームを見て、又はそのコートを知っている友人から聞いて得られる。勿論、ゲーム中間のカラーチェンジ後のプラクティスの際には、最初の 8 フレームの対戦相手のプレイを見て、情報を得ている。

セントピートやタンパの背後に隠すルートの情報を予め知っていれば、代わりに、7 にディスクを置いてもらって、プラクティスを行ってもよい。友人が、10 が複雑だと警告したら、そのプラクティスを 2 つ行うこともある。ゲーム中間までに、通常のプラクティス 4 つの場所を全て知った場合は、ゲーム中間のプラクティスは、7 を 4 つ、又はコーナー 7 を 2 つと 8 を 2 つ試してもよい。スーサイドアレー（相手セントピート外側）ショットを試してもよい。プラクティスで得た情報は、記憶するか又はドリフトカードに記録する。

